急性冠症候群疑いに対する心筋トロポニン測定で心筋梗塞や死亡リスク低下

心筋トロポニンⅠの高感度検査により、従来の検査よりも心筋損傷や心筋梗塞の患者が多く同定されているが、急性冠症候群の疑いがある患者の長期的転帰については不明である。

本研究では、2013 年 6 月～2016 年 3 月に英国スコットランドの 2 次および 3 次医療センター10 施設で登録された急性冠症候群疑いの 48,282 例を対象に、高感度心筋トロポニン検査の早期実施群（5 施設）と後期実施群（5 施設）に無作為に割りつけ、高感度検査導入前後 5 年時の心筋梗塞および死亡リスクを評価した。10,360 例は心筋トロポニンⅠ濃度が 99 パーセンタイルを超え、このうち標準検査で同定されず高感度検査で同定された 1,771 例（17.1%）は再分類した。高感度検査による治療の実施前と実施後の主要転帰の 5 年発生率は、全患者においてはそれぞれ 29.4%、25.9%（補正後ハザード比 0.97）となり、高感度検査で再分類された患者においてはそれぞれ 63.0%、53.9%であった（同比 0.82）。高感度検査導入後、非虚血性心筋損傷患者では心筋梗塞または死亡の減少がみられたが（補正後ハザード比 0.83）、1 型および 2 型(註)の心筋梗塞患者ではみられなかった（同比はそれぞれ 0.92、0.98）。

今回の結果から、急性冠症候群の疑いがある患者において、高感度心筋トロポニン検査の導入により、高感度検査で再分類された患者の 5 年後の心筋梗塞または死亡のリスクが低下することが示された。また、転帰の改善は非虚血性心筋損傷患者で最も大きく、本検査は心筋梗塞の同定に留まらず幅広く有益であることが示唆された。

（註）1 型心筋梗塞：主要な冠動脈イベントに起因する虚血により自然に生じた心筋梗塞

2 型心筋梗塞：酸素需要と供給のアンバランスまたは不均衡に起因する冠攣縮や冠塞栓などが含まれる

出典：British Medical Journal. 2023 Nov 27: 383: e075009.